

会 議 録

会議の名称	中野市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（案）について 市民説明会
日時	平成 27 年 9 月 29 日（火） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 17 分
会場	中野市立高丘小学校体育館
出席者等	<ul style="list-style-type: none">・参加者 54 人・教育委員会出席者 11 人 教育委員 5 人、教育委員会事務局 6 人・報道機関 3 人
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 あいさつ3 基本方針（案）について4 質疑5 閉会
発言内容等	別紙のとおり

(別紙)

- 1 開会 進行：教育次長
- 2 あいさつ 教育委員長
- 3 基本方針（案）について 学校教育課長から資料に基づき説明

4 質疑

意見

- 年齢は73歳ですが、孫が今年3月に生まれ、小学校の統合問題が気になっておりますので、質問をさせていただきます。まず1点目、5ページのところに国の基準の複式学級とか県の基準の複式学級とか書いてありますが、その数字を教えてください。2点目、これだけ大きな統合案をお決めいただいたんで、当然山ノ内町、野沢温泉村、木島平村などの状況を十分把握しておられると思いますが、山ノ内町、野沢温泉村、木島平村の方がもっと中野市よりも複式学級の話は別としても、1学年10人以下の児童数になるというような動きが強いと思うのですが、調査の中身、それと、それらの町村で中野市と同じように統合の動きがあるのかどうか、あるとすればその状況を教えてください。

回答

- まず、複式学級については、国の基準は、1年生を含むときは8人以下、具体的に申しますと1学年と2学年で8人以下になると複式学級となります。1年生を含まない学年になりますと16人以下となります。ただし長野県の基準では、山間地が多い関係で、非常に手厚く見ていただいております、2つの学年の内、1学年とかそういうことは関係なく、8人以下が複式学級となります。2つの学年あわせた児童数が、9から16人の時には、県の負担で講師等の教員を派遣していただき、複式は解消いたします。
- 2点目の近隣町村の状況ですが、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村の三つの町村について、詳細は判らない部分もありますが、直近のところでは、山ノ内町が進行しております。山ノ内町の場合では、須賀川地区、山ノ内北小学校ですが、複式学級という状況になっており、やはり地域住民の皆さんは複式学級はぜひ避けて欲しいという声が強くと聞いております。そのために、隣接する夜間瀬の西小学校と一緒にするか、あるいは、山ノ内町4小学校を一度に統合するかをいろいろと模索している最中だと聞いており、段階的に統合の方へといった声が強くと聞いております。木島平村ですが、村に南部、中部、北部と3小学校ございました。やはり村の人口の減少で児童、生徒数が減り小学校について統合ということが浮上しまして、これを一度に真ん中の中部小学校のところへもっていくかという案もあれば、北部小学校を残して、中部と南部を統合という案もあったりと、いろいろな声があったそうです。そういう経過の中で、学校を支える運営協議会のような、現在でも50人くらいいらっしゃる話を聞いておりますが、いろ

いろな分野の方々が、定期的に中部小学校、現在の木島平小学校ですが、そこへ集まって学校運営をどうするかを議しているそうです。いずれにしても大変、紆余曲折があったと教職の世代の方からお話は聞いております。野沢温泉村でございますが、今後村を盛り立てていくにはどうすればいいのかということのをベースに話し合い、やはり、観光業だろうと、スキーや外国の方も大勢来るので、英語教育もたくさん取り入れようと、そういった村の特色を出しつつ、活性化していくような理念に基づいて、保育園も一緒にし、保小中と一体となった一本のカリキュラムとし、野沢温泉学園として進めているということです。飯山地区では、高校も取り入れて、保小中高とリンクして一緒にやっっていこうという動きも現在ございます。

意見

- 3点目に皆さん方の見解をお伺したいのですが、実は私若いころに下水内の地方事務所に勤めていたことがございまして、栄村は非常に当時から過疎化が進んでおり、複式学級も結構たくさんある状況でしたが、その後が気になったものですから、教育委員会にお伺いしましたところ、栄村は昔から、学校教育に対して非常に懇切な対応をしておられました。村には2つの小学校がありますが、そのうちの大きい方の栄小学校は、1学年3人しかいない。というような話がありました。秋山小学校の方は、全校でたった2人で、確か6年生が1人、2年生が1人で、それぞれに先生が1人ずつ、非常に濃密な対応をしておられるということをお伺いしました。そんなことを考えますと中野市の児童も、野沢温泉の児童も、栄村の児童も健やかに育ててもらいたいとここにも書いてありますが、基本的な考え方、上位改正の制度ですよね。同じ長野県人、日本人でみんな同じだと思います。先ほどご説明を聞いた資料の中身を見れば、高丘小学校の状況は、栄村の皆さんにすれば夢のような人数です。そういう状況の中で、何でこの高丘小学校を統合する必要があるのでしょうか。高丘の統合が一番最後の年にはなっておりますけれども、子どもが健やかに育ててもらいたいという気持ちは、どこも保護者だって、教育に携わっている皆さんなら、皆同じはずです。同じはずなのに、それだけの違いがある。中野市は一体どうなっているのだろうと私は思います。そういう意味で、この高丘小学校の統合に対して、地域のみなさん方の統合反対署名運動など、当然起こってくると思うのですが、その数が非常に多いとか、区長会で統合反対の決議をするというような動きがあったり、更には市議会においても当然いろいろと出てくると思うのですが、その場合には、ほかのところはさておいても、高丘小学校の統合について、白紙撤回もするというようなことも有り得るのか、どうなのかという見解を今の段階でお聞きしたい。

回答

- 栄村の秋山小については、旧東部小と旧北信小が一緒になりまして、北信小の位置に栄小というものができておりますが、地域的に小さな子どもたちをいわゆる森宮ノ原へ下りてきてもらうというのは厳しいというようなことも背景にあるそうです。あの栄村の1村の中で大人の人口、子どもの人数を考えたとき、隣接する飯山の方と云々という

ことは現状では考えにくいいため、村の中で何とかしようと、そんな体制をとっているんだと思います。県の教育委員会でも、県費の正規教員をどう配置するかということで、いろいろと栄村とやり取りをしているのだと思います。高丘小学校についてですが、小学校の統合については、中学校区で考えるのが望ましいと答申を受けておりまして、高丘小学校の今後の児童数等予測しながら勘案し、やはり学級数は複数以上あった方が望ましい、この中学校区の中で、平野小と統合した方が将来的にはいいという所にたどり着いております。

意見

- 反対署名運動の数だとか、区長会の反対決議だとかそういうのがあった程度では、高丘小学校の統合については撤回するというお考えはないのですか。

回答

- 地域の声をお聞きしたり、今後署名等あった場合も含め、ここで即答はできませんので、考えさせていただきたいと思います。

意見

- 時間かかりましたけど、審議会の会議録を全部読んできたつもりです。答申では、小中の児童生徒数は、25人が望ましいというようになっていたと思います。それがいきなり高丘の場合でいくと全学級、単級になるというような言い方をされています。高丘小学校の学年別の推移を見ると、25人はいます。答申を全部尊重されるということはないと思いますが、そうすると2学級のところも出てくると思います。最初の方の説明の文章では、高丘小学校は適正規模に達していないという言い方ですが、高丘小学校でいう適正規模は何かを教えてください。それと、答申の内容の25人が35人になったとすれば、その考え方を聞かせてください。
- 答申では、各地域の実情も勘案して、慎重に合併を進めるというふうに言っていたと思いますが、高丘については、どのように捉えて提案されているのか、単純に単級だからということだけで提案されているのかお聞きします。

回答

- 答申では25人ですが、県の基準の1クラス35人までの人数で提案をさせていただいております。国ではもう少し基準が大きくなっておりまして、小学校1年生については、35人までとなっておりますけれども、2年生から中学3年生につきましては、40人が1クラスの基準となっておりますが、長野県は山間地が多いということから、1クラス35人を標準としています。少人数になれば、メリットもデメリットもございます。そんな中で検討した結果、県の基準でとなったものでございます。
- 地域性も十分検討させていただきましたが、やはり人数が減ってくるということで考えた結果でございます。

意見

- 35人を基準にした理由がどうもわかりません。数字合わせというふうに考えざるを得ない。高丘の場合で言えば、解消できるクラスもあるのに、単純に県の学級数に合わせたにすぎないというふうに捉えます。
- 地域性のことについては、中学校区でやるという話もさっきありましたが、自分の身の回りで感じている、見ていること、私は立ヶ花ですので、その辺りをお話しさせてください。私はボランティアでパトロールやっており、今年県警本部長表彰をもらいました。このボランティアの募集は、10年程前に学校からきたたった1枚の用紙でした。ですから区長会とか民生委員とかではなく、自主的に手をあげ、学校に対する思いというか、協力というか、そういうことで、30人くらいのボランティアがいました。学校もいろいろと地域との結びつきを考えられていて、例えば、音楽会当日は父兄も含めて、家族みんな来てもいいよということだったのですが、昨年あたりから当日だけでは都合が悪い人もいるだろうから、練習風景を見に来てもらってもいいという学校側の配慮があり、地域の方に頼ったり、頼られたりという関係にあります。どこの学校も同じだと思いますが、旧村時代の話が出てきます。旧村時代は高丘小学校を新設する時に、村では予算が足りず、立ヶ花、牛出、栗林、安源寺、そういう地域に割り当てたんですね。だけど、お金が出せなくて、ある特殊家庭では、代わりに区有林を担保にあげて、その人に出してもらって、そのことが今でも話題になるときがあります。そういう長い歴史もあります。それぞれの地域には色々な実情があり、私も高丘小学校を統合だって言われた時に、単純に悲しいというか、残念だという気がしました。
- あと先程の学級数の関係で言いますと、これも審議会の中で出てきたことですが、各学校の先生方の代表者が集まって調査しています。学校の先生方には、校長先生もいれば、教頭先生もいましたが、そこでも、児童数は20人ぐらいがいいということをおっしゃっています。ただ学級数については、2学級欲しいというふうに言うておいででした。なぜ複数学級がいいかという、協調性や社会性を身につけるためという考えなんです。が、学力とか教えていくには20人ぐらいが一番教えやすいということでした。そういうことであれば、単級であっても地域としてできることはもっと協力していきますから、高丘の場合はこのまま続けてほしいと思います。
- それとこの提案は、いわゆる社会情勢とか市の財政とか、西部地区を発展を含めてどのように考えているのか、そういう視点が見えていないと思っています。この間、長野電鉄に乗りましたら、長野まで910円で、私の所からは飯山線で320円で行けるんです。もっと飯山線を生かした西部地区の開発や発展を踏まえたいうえで、統合問題ということを考えていただき、高丘の場合は、もう少し様子を見てもいいのではないのでしょうか。

回答

- 人数については、他の地区でも意見がでております。答申では25人がいいとご提案もいただいております。現場の先生方の声も聞いております。ただ、10人台、あるいは、一桁になってくると、これは、現場の先生方もどうかなあというようなご意見も多いように

感じています。私共も非常に苦慮しましたところは、いわゆる県費の正規の先生方の配置でございます。1クラス25人がいいとした時に、2クラスなったから県の正規の先生2人配置しますよ、とは県は言ってくれません。その分市でみればいいじゃないかといご意見もいただきました。ただ、これを崩した場合、中野市の教員配置の関係で、そこが非常に難しいところです。けれども、市の教育委員会としては、例えば、どうしても何学年のこのクラスにおいては、市費で半日でもいいから、何人かの子どもさんを見てほしいとか、支援が必要なお子さんを丁寧に見るとか、出来るだけ対応しているつもりでございます。

- それからボランティアの方をはじめ、学校を支えてくださっている方は、とても自発的に活動をしてくださると聞いております、感謝しています。音楽会の練習もオープンにさせていただき、いつでも学校へ入ってきてくださいと、そういう時代になっておりますので、ぜひ子どもの姿をご覧いただければと思っております。
- 旧高丘村時代からの歴史についても勉強して参りました。それぞれ、旧高丘村に限らず、中野市内の旧村、旧中学校、旧小学校など、長い歴史というものを持っているという事は承知しております。西部地区の発展については、総合計画や総合戦略の形で市長の方から説明申しあげ、ご意見を募り、具体的検討に入っている状況でございます。

意見

- 孫二人が小学校にお世話になっています。私は豊田の方へも聞きに行ったのですが、教育委員会は地域のことを考えて、この予算や計画を出してきたのかなあと疑問に思いました。何が一番の目的なのかと考えると、やはり、教育予算減らしたいのではないかと。今、中野市は、市庁舎の問題とか、大幅に予算が増えるそうですが、そういったことも考えなければいけないので、学校を減らせば、予算も相当減らせるのではないかと、そういうふうに単純に考えられます。そういう中で、中野市全体では、先生の数はどの位いるのでしょうか。もし計画通りやれば、先生の数はどのくらいになるのでしょうか、予算は果たして、増えるのか、減るのでしょうか。教育予算は、日本の経済力に比べれば非常に少ないと言われているのですが、教育費の負担も多いので、国がもっと教育予算を出さなければいけないと思うのですが、中野市は教育に力を入れて、教育予算を減らすというような考えをもってもらいたくないと思います。
- それから、人口減少ということを盛んに言われていますが、地域から公共的なものがなくなれば、なくなるほど、人口減少がどんどん進むのではないかと思います。日本全体でも人口を増やすために、人口減少に拍車をかけるというような事をしてしていますが、ただ、小学校をなくすというようなことは考えるべきではない。高丘小学校を残しておくのが、高丘地区にとっては、非常にいいことではないかと思っています。いずれにしても高丘小学校は絶対なくさないでいただきたい。
- それから、1学年に2クラス無ければいけないのか、専門家の中でも一致した見解ではないと思います。もっと少人数でもいいという学者もいます。それを2年間の審議で

この基準が正しいんだということを出してきて、それはちょっとおかしいことだと思います。

回答

- 統合したあとどのくらい人数が減るかというのは、まだ、統合が仮定の話ですから、試算はしてございません。教職員数は、小学校の場合には、県費の正規教職員は、養護教諭とか、栄養職員とか、事務室の方々を含めまして、現在、201 人であります。それから、中学の場合には、117 人でございます。昨年度 9 月 1 日現在の正式な調査の数でございます。
- それから、教育委員会では決して、学校をなくして、地域の活性化を妨げるような、そんなつもりは全くございません。また、仮定の話ですが、空いた学校や教室については、地域住民の皆様のお声をお聞きしながら、市全体として考えていくことだと思っています。そして、地域の活性化につながる利用の仕方、活用の仕方を考えていくべきだと考えています。教育学者といわれる方々にもいろんな考えがございます。ただ、何を基準にするかとなると、審議会ですら十分ご審議いただいたこと、あるいは、現場の先生方の声、あるいは、教育委員会で議した経過等総合的にみまして、こういうところへたどり着いているというようなことでございます。

意見

- 予算を減らすだけの、そういう化かされたねらいがあるのではないかと疑っていましたが、そういうことは、絶対ないということですか。それから地域の人口減少に拍車がかかるという問題で、学校はほかの施設と変わることができない非常に重要な施設なのに簡単に考えられておられて、答えを聞いても納得できません。中野高校の跡地の利用だって今だにどうするか決まらない。そして、中野市じゅうの学校がなくなって、それぞれ地域の発展のために活用しろと言われても、そんなに簡単にできるようなことはありません。それよりも、どういうふうにさせるんだとみんなで力を尽くし、エネルギーを使えば、子ども達にも良くなっていくと思うんです。こういうのは、無駄なエネルギーなんじゃないかなと考えます。

回答

- 決して予算ありきということではございませんので、ご理解をいただきたいと思いません。いただいた意見につきましては、関係部署と連携を図っていきたいと思えます。

意見

- 仕事の関係で中々参加できず、科野地区ですが今回参加させていただきました。諸先輩方の話を伺う中で、浅はかなことを言うかもしれませんが、3歳の年少の子どもがいます。ちょうど科野地区統合の話が出ております。いろんな、文化があり、歴史がありまして、今住んでいる所が、科野小学校のすぐ近くになります。なので、子どものこと

を考えたり、今までの自分のことも考えていたのですが、今、この資料にもありますが、科野、北部の方は如実に人口減少しております。むしろこちらの高丘地区は羨ましいと思うくらいですが、子どものことを考えるとやはり、少ない人数での教育より、いろんな共存であったり、学ぶことってというのは、多人数の中で学べるものが多いかなと考えています。その中で3つほど、伺いたいことがあります。統合になれば出てくる話だと思いますが、通学に関しての距離の問題です。資料の中にもスクールバスを出すと出てはいるのですが、私の家から平岡小学校まで、約4kmあります。子どもの足で行きますと1時間ぐらいかかります。安全面を考え、保護者の協力を得てというのがあると思うのですが、実際にスクールバスを出すには、どのくらいを基準と考えればいいのでしょうか。スクールバスを出さない地区について、距離はぎりぎり遠い部分は、どのように安全を確保されることを考えているのでしょうか。

- それと、今お話にもありました跡地のことです。私の家のすぐ裏なので、廃校になる小学校は不気味な感じがします。ですので、跡地の利用については、何かしら対策をとられるというのをおっしゃってはいますが、メディア等でも見させてもらう中で、ひとつの例とすれば、老人ホームや介護施設として跡地を利用することによって、痴ほう症の減少を抑えることができる。小学校は昔なじんだ、昔に戻るというのがあって、それが痴ほうを抑えることがあるとひとつのメディアの中で聞いたことがあります。廃校になるよりは、そういった跡地利用を考えてほしい。できるだけ、招致、誘致してほしい。
- 3点目は、やはり少子化になります。対策は、教育委員会ではないと思いますが、実際、私もひとりの子どもがいますが、勤めて給料をいただいています、正直、なかなか、今の子どもを育てることになると、財政的な部分を含めると難しくなってきたり、若い世代では苦勞をしていて、むしろ、子どもを作ることに歯止めをかけてしまう人がいるということを私の友人から聞いています。ですので、子育てでしやすいような環境づくりを行なっていたかできない限りは、ただ、人口が減るから小学校を削る、統合する、ゆくゆくは過疎化する。中野は衰退する、そういったところへ行ってしまうのではないかと心配しています。出来るだけ若い世代が、子育てでしやすい、また新しく入ってこられるような環境づくりを行なっていたらいいという要望も含めて意見を述べさせてもらいました。

回答

- 通学路の関係では、国の基準でいきますと、小学校は4km以上では、何らかの公共交通機関かスクールバスを出すとなっています。ただ、市によっては3kmというところもあり、地域によって実情もありますので、臨機応変に考えていきたいと思っています。通学路の安全確保につきましては、通学路の整備等、十分安全面には配慮する予定にしております。
- 小学校の跡地利用につきましては、これから意見を聞く中で、決めていきたいと思っておりますが、現在の小学校は、地域のコミュニティな場だとか避難所になっていますので、先程から説明にもありましたが、総合計画とか人口ビジョンも市で計画していま

すので、その関係と絡めながら関係各課と連携を図り、対応していきたいと思います。老人ホームや介護施設という意見もいただきましたので、参考意見として、担当課へ伝えるようにします。それから、少子化対策の関係で、子どもを育てるにはお金がかかるということですが、今、中野市のできる範囲の予算の中で、例えば、3人目は保育料を無料にするとか、中学校までの医療費等を無料にするとか対策をたてていますが、人口にジョーンつきましてもご意見があれば、伺いたいと思います。

意見

- 6ページの(5)の③に統合校の位置については、今後の検討課題であり、と書いてありますが、どのように具体的に進んでいくのか、誰が、どのように決めるのか、決まっていたら教えてください。

回答

- 基本的には、現在の学校の敷地や校舎を活用するという方向で検討していますが、平野小は敷地が狭隘な部分もあり、高丘もそれぞれ土地が狭いため、位置については、いろいろと模索している段階で、場所については何とも申し上げられませんので、ご理解いただきたいと思います。

意見

- 小学校2年生の孫のじいさんです。今まで発言された方とまったく思っていたことが同じでした。ですから、おそらく今日お集まりの高丘の住民の方は、心の中で大きな拍手をしているのではないかと思います。私は中野小学校の説明会にも出たのですが、1人も質問がなく、非常にびっくりしました。私たち人間というのは、自分に関わりがないとすごく冷たいと感じました。科野の方も非常に心配しておられて、ここまでみえられた。ですから、よその状況まで理解していかなければいけないと思います。今日の教育関係者のご苦勞はよくわかりますが、説明も非常に気が無い。なぜならば、市議会も傍聴しましたがけれども、聞くところによるといろいろなところで、11月に結論を出すという方向は撤回されているはずです。一言も言っていませんでした。7月8日の飯綱町の小学校合併の記事が信毎にありました。子どもたちの教育環境を整えるため、統合していこうじゃないかという、それに対して、教育委員会は、1クラス20人、2学級にして、こうしたときのメリット、人数が多くなることによって、多人数ですよ20人って、20人になった多人数によって、子どもたちには切磋琢磨して、力強い子どもたちができてる、そして、考え方についても多様な知識が得られる、子どもの成長には本当にいいことじゃないか。先ほど財政的な面の話がありましたが、学校担当の人たちは財政面から合併するのではないと言われますが、飯綱町のような小さいところでも実行できています。県費の正規職員がだめなら、自分たちでやろうと。ここにおられる人たちは、全員ではありませんが、高丘を代表する人たちです。この人たちが帰って行かれて、この小学校を守ろうという運動が立ち上がった時に、確かに白紙撤回の気持ちは今はなく

でも、せざるを得ないように取り組まれるかもしれない。議長もでている非常に大きな力を持っているこの高丘に対して、皆さんは真摯な態度でこの会議にのぞまなかった。私は体を壊していますけど、命の続く限りこの小学校ために尽くしていきたいと思いません。

意見

- 平野地域、高丘地域の子どもの人数ですが、何年後には平野の地域は減らず、高丘の地域は減るような形になっています。通学地域の学校の統合ではなく、通学区域の変更というお考えはないですか。片塩とかは、高丘小学校行っても平野小学校へ行っても距離的には変わりません。また、大俣はスクールバスが運行していますので、長嶺に寄って子どもたちを連れて、スクールバスで高丘小学校へ来るのも有りなのではないかと思いません。

回答

- 現時点では、通学区域の見直しは考えておりません。通学区域の見直しとなると、区の付き合いなど色々な部分で影響がありますので、ご意見として伺っておきます。

意見

- 私が小学校4年生の時、大俣の人たちが高丘小学校へ編入してきました。あの時も急に大俣の人達が来て人数も増えたという経験もありますので、通学区域の見直しも考えていただきたいと思いません。

意見

- 私は豊田地区での説明会にも伺ったのですが、教育委員の方々はどういった立場で物事を考えられてられるのか。他の地域では、この案に賛成という人もおられますが、大多数はとてもしゃないけど賛成できないというような意見が出ています。豊田へ行ってつくづくそう思いました。その中で、教育委員の方々はどうのように考えてこんな案を出してきたのか、本当にこれでいいのかどうか、一人ひとりの意見をお聞きしたいと思いません。

回答

- 一人ひとり何を考えて案を出したのかということですが、私ども教育委員に選任され、統合問題という大変な問題にぶち当たったわけですが、学校訪問をし、授業参観等をする中で、自分たちの世代では経験がなかったような小規模化、少ない人数のクラスで、授業をしている姿を目の当たりにし、それがすべて悪いというわけではなく、少規模校での良さということも十分理解しているつもりではありますが、やはり子どもたちの将来のことを考えると、統合を進めていくべきだというのが、教育委員の総意であると考えております。

意見

- 資料7ページのスケジュールですが、11月に基本方針最終決定とありますが、これで基本方針の決定がなされた場合、この方針のまま進んでしまうのでしょうか。
- それと、なぜ今このタイミングで、市内全域にわたって統合する形となったのでしょうか。

回答

- 資料では、11月に基本方針決定最終としておりますが、小学校単位で回っておりますこの説明会の中で意見をいただいております、検討する事項もありますので、スケジュールについては、再度検討ということをお願いしたいと思います。
- 今のタイミングということですが、平成24年9月にこの統合についての審議会を立ち上げ議論してまいりました。その前にも、平成21年から検討してきており、その積み重ねと、色々なご意見を伺っていく中で、基本方針案をまとめたということがございます。

意見

- 今市内全域で統合という形になっていますが、本当に必要な箇所、そうでない箇所があると思います。なぜ分けて考えるということはされなかったのか。いきなり全部という説明をされていますが、どこかから段階を踏んで、こうやってみて、色々な意見を聞きながらという形があったのではないのでしょうか。

回答

- 審議会の答申も重く受け止めています。ただ1学級が3人というような状況ある中、先生方工夫していることは十分承知はしておりますが、果たしてこれでいいのかと考えた結果でございます。

意見

- 一度に市内全域に統合という形であった場合、地域なりにそういうことを聞く時間がきちんととれるのかという問題があったと思います。人数が多いようなところは、今、統合の話を出さなくても、しばらくたってからでも、という形にもできたのではないのでしょうか。極端に少ないところと、多いところと、一色端に一括で出されているということですが。

回答

- 当然別々に考えるという意見もありましたが、同じ土俵といいますか、全ての中野市内の小中学校のことを考えて、こうですよと一本でまとめて出し、緊急性のあるものから順次やるということがございます。中野市全体ではこの方針で行くということをお示ししたかったということもご理解いただきたい。

意見

- 皆さんから左手奥に小学校の校歌が書いてあります。この校歌が歌えなくなるのは非常につらいというのが正直な感想です。しかし、自分の身内でも実際に小学校が統合され、移動した状態を知っていますので、このまま当地区人口が減り、お子さんの数も減っていけば、ここで色々な意見を言ったとしても、最終的には数人の学級が存在してきて、複式学級や統合という話に向かわざるを得ないと思います。ですから、教育委員さんにお話しすることではありませんが、中野市の行政をやられている方にお伝えいただきたいのですが、まずは、人口を増やす方法を進めていただきたい。小学校統合について、何名かの方がお話しされていましたが、25人いれば、十分できるじゃないかということはわかっています。以前は40人1学級でした。その1学級で何かトラブルがあったかということ、ありません。1学級だからとだめだということはありませんので、その考えは除いていただきたい。まして、トラブルがあったから組替するなどは問題外であって、それは学級管理者の方の怠慢です。今回たまたま教育委員の立場になって、ご苦労され、こういう統合に変更していかなければならないということも承知はしておりますが、できましたらこの地区は今しばらく統合から除いていただきたい。大規模校を分けるという方法も含めて考えていただきたいと思います。

意見

- 今後のスケジュールについて教えてください。いつごろ目途に結論を出すのですか。

回答

- 明日で、全11小学校の説明会が終わります。出た意見につきましては、ホームページ、あるいは、これから、本庁や支所などで見ることができるようになりますが、多くの意見を踏まえて、調整しなければならないので、今の段階でいつ、決定とは言えません。資料に出ているスケジュールについても再検討するとは申しあげられません。何らかの形で、こういった機会を設けるか、どうするかについては、検討している最中でございます。